



関東ブロック保育研究大会（速報）

- | | |
|------------------|----------------|
| 2.総会・保育所長研修会 | 14.新規採用予定職員研修会 |
| 3.第56回静岡県保育研究大会 | 16.各研修報告 |
| 4.各分科会報告（1～8分科会） | 17.専門委員会報告 |
| 12.県保育研究大会に参加して | 20.支部だより |

📷 写真提供：沼津市 原町保育園

平成27年度

静岡県保育所連合会総会 並びに 保育所長研修会

開催

期日 平成二十七年四月二十三日
会場 静岡市民文化会館

平成二十七年年度静岡県保育所連合会総会は、静岡県健康福祉部こども未来局・河森佳奈子局長、静岡県社会福祉協議会・杉田勇三常務理事等、多くの来賓の皆様をお迎えして、静岡市民文化会館において開催されました。

最初に後藤弘明会長の挨拶の中で「子ども子育て新制度がスタートしたが、目的はすべての子どもへの最善の保証と質の高い保育の提供である。質の高い保育、いい保育の



実現には園長・保育士・看護師など全体で専門性を高める意識が必要であり、一人ひとりの子どもに対して深い洞察と愛情を注ぐ為、たゆまぬ自己研さんにより物事の本質を見る心をもってほしい。また、今年度は7月に関東ブロック保育研究大会が静岡で開催される。皆さんのご協力を得て、ぜひ成功させたい」と力強く挨拶されました。その後、河森局長、杉田常務からもお祝いのお言葉をいただきました。次に総会に移り、議長に浜松市太陽第二こども園・佐藤宏人園長、副議長に

伊豆の国市立長岡保育園・古屋恵美子園長を選出し、議事に入りました。

議案として第一号議案・平成二十六年度事業報告・決算報告、第二号議案・会長指名理事の承認と監事の選出、第三号議案・平成二十七年事業計画・予算案の議案が審議され、承認されました。



その後、新規入会の保育所、子ども園として二十園が紹介されました。

総会終了後、引き続き保育所長研修会が開催されました。講師には大仁町（現在の伊豆の国市）出身で、

桜美林大学教授、山口創氏をお招きし、「子どもの『脳』は肌にある」オキシトシンが与える影響」というテーマの元に一時間半にわたってお話しをいただきました。先生は人間科学博士、臨床発達心理士として、子どもに触れる事の影響やタッチングの質について研究されており、ヒトの胚の中で脳と皮膚は同じ部分から成長する。生まれてから最初に育つのが触感であり、子どもの脳は皮膚にあ

ると言えるだろうとして、子どもとのスキンシップの大切さをわかりやすく話していただきました。

乳幼児期・児童期は最も多くのスキンシップを必要としており、抱っこなどの身体接触の心地よさによって愛着スタイルが決まる。抱き癖は悪いものであるとか、子どもを依存的にするといった誤解があるが、抱っこことは精神的に支え、情緒的に包む事である。

また、スキンシップや、やさしい言葉掛けなどによって、オキシトシンという物質が体内に分泌されると、親は子煩悩になったり夫婦仲良くなる。子は学習能力が高まりストレス



耐性が強くなるといった研究結果がある事や、スキンシップの不足が将来、社会的不適応を生む一因になっているなど、現在軽視されがちなスキンシップの重要性を再認識させていただいた講演でした。

第五十六回

静岡県保育研究大会

平成二十七年五月十三日(水) 静岡市



今年度の静岡県保育研究大会は、七月開催の関東ブロック保育研究大会の静岡大会を見据え、会場を静岡県コンベンションアーツセンター(グランシップ)に移しての開催となりました。

当日は、心配された台風の影響もなく大会役員含め六百一名の参加者により盛大に実施されました。

国の「子ども・子育て会議」による「子ども・子育て支援新制度」の具体的な運用が、本年四月より本格的にスタートしました。



そのような中であって保育所等は全国的に増えている待機児童を解消すべく定員増や分園の設置をはかり、日々の保育の中では、子どもの最善の利益を保障することを心がけ、保育の質の向上にも取り組んでおります。

今大会も「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」という主題のもと、県保育所連合会、県保育士会から選出された代表が八つの分科会で研究発表を行いました。参加者は熱心に聞き入り、その後は質疑や活発な議論、意見交換を行い実りある大会となりました。

保育研究大会が滞りなく、また盛会裏に終了できましたことは、運営に携わって頂いたすべての関係者の方々のおかげであることと深く感謝申し上げます。



第一分科会

テーマ 「新たな時代の保育実践」

「すべての子どもにむけて」

「子育てと子育て家庭を支える」

保育所となるために

発表者

①伊東市

伊豆栄光湯川保育園

園長 川嶋 宏子

保育士 大橋 桂子

②静岡市立保育園

長田乳幼児ブロック

下川原こども園

保育士 藪崎 翼

東新田こども園

保育士 高木 啓子

③いわた保育士会

保育の資質向上部会

袋井市明和第一保育園

保育士 小木亜友美

磐田市

こつのとりに豊田保育園

保育士 山下 実穂

議長

伊豆の国市

慈恵保育園

副園長 土山 龍之

助言者

静岡県立大学短期大学部

教授 漁田 俊子

記録者

伊豆の国市

ちとせ保育園

園長 小林弘之介

発表(一) 人間⊗(花まる) 保育をめざして

「人間大好きに育てよう」

伊東市からの民間委託による保育を運営、スタートしていく中、「子どもたちと安心・安定した日々を過ごしたい」「信頼関係を築きたい」という思いから、人間⊗(人間大好きな子に育てよう) 保育の取り組み。保護者との面談。保護者の保育参観(保育士体験)などを行ってきた。

この様な実践を通して、保護者にも『人間⊗』の理解を得られ、信頼関係の土台が築けたことが、励みにもなり、自信にも繋がった。

発表(二) 一人ひとりの子どもの育ち

見つめる保育

「子どもの思いに寄り添う」

事例をロールプレイで実践してみることにより、保育者の視点・子どもの視点・第三者の視点として考えることができた。すべての子どもの行動には意味がある」ということを意識し、子どもの気持ちを受けとめる保育士の第一声が重要であり、子どもの思いに込め、一緒に考えることが保育士の役目だと学んだ。子どもの姿を捉えるだけでなく、さらに子どもたちが、もっとやりたいという意欲に繋げる保育を意識したい。

発表(三) 三歳未満児の個別的な計画を

保育へ活かすには

「個別的計画の作成方法を学びあう」

三歳未満児は、心身の発育や発達が著しく、一人一人に合わせた保育が必要である。三歳未満児は、複数で担任することが多く、保育経験や子どもの理解の仕方も様々であることから、一貫した指導や支援が難しいことがある。このことから、各園の個別計画を検討し、作成と見直しを繰り返し行ったことで、書きやすくわかりやすい個別計画ができ、一人一人の子どもの姿がより具体的に捉えられ、個性を理解できるようになった。

助言者より

保育の中で愛着と信頼というのはとても重要なことである。子どもの脳は二〜三歳で神経細胞の形成が終わってしまう。愛着の形成、信頼関係が作られるのも八割がた三歳くらいといわれている。保育所では愛着と信頼というものを子どもの中の心の中に作ってあげることが最も重要である。

また、保育の中で新しい事を展開する時は、PDC Aサイクルを回し、活用していただきたい。



第二分科会

テーマ「配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて」

発表者 ①伊豆の国市 ひまわり保育園
主任保育士 渡辺 浩子
主任保育士 浅沼 有里

②牧の原市 あおぞら保育園
主任保育士 松下 文乃
保育士 秋野 愛

③掛川市 よこすか保育園
リーダー保育士 鈴木 麻樹
保育士 吉原 朱音

議長 静岡市 日吉町保育園
園長 堀田 卓文

助言者 静岡大学教育学部
教授 香野 毅

記録 静岡市 沼上保育園
園長 森下 健一

発表(一) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援に向けて
子どもの育ちを支える

保育のあり方を探る

「配慮を要する子」の配慮とは何か、今一度立ち止まって分析を行い、①育ちに不安を持つ子や、行動・気持ちの切り替えが上手にできない子とその保護者に対する支援、②乳

幼児期に必要な生活環境や保護者の養育力に働きかける支援、の二つに絞って研究しました。結果、すべてが子どもや保護者への支援につながることであり、様々な課題に直面しました。今後も職員間の連携を密に子ども・保護者と共に歩める保育を目指していきます。

発表(二) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて
気になる子どもの保育と
家庭支援

「子どもの笑顔がはじける環境作り」をテーマに話し合い、情報を共有しながら新しい保育園として取り組みました。

Aくんの事例を基に、保護者の思いを他のクラスの職員とも共有し、園全体で子どもを見守っている安堵感のようなものが生まれてきました。また、私たち職員をつなげてくれて大切なことを改めて教えてくれました。これからもみんなの笑顔があふれる園になれるように子どもたち、ご家族の皆さんに寄り添いながら一日一日の保育を大切にしていきたい。

発表(三) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援
根拠に基づく支援をめざして・子どもたちの健やかな成長のために

園内研修等でケース会議やエピソード記述検討会を行い、専門機関と連携を取り合っただけでなく、良い支援策を考案し実践してきたが、今後さ



員が主体的に研究に取り組み、援助や支援も統一され、園全体での支援につながり、保護者の姿や職員との関係に改善がみられるようになった。

助言者より

配慮が必要な子どもの中の一つに要因として発達障害があり、これは生得的な弱さに加えて発達機会を持ちにくいというものを併せてもっている。これには、苦手なことも楽しんで取り組むことが必要で、できなくてもやろうとする過程が大切である。また、近年は「転ばぬ先の杖」の通り親等の過剰に介入・過干渉な養育が多くなっている。このことに対しては、子どもの気持ちにおりることが必要で、子どもの情緒の波の悪い時に支援することが大切である。

らなる様々なニーズに対応する為に、根拠に基づいた支援（保護者への育児支援）を行うこととした。実践をとおし、自分たちの思いや考えが整理され、考えや意見を交わしやすくなりました。また、職

第三分科会

テーマ「保育者の資質向上を図る」

―職場内研修の充実による

職員の資質向上―

発表者 ①沼津市 天神保育園

園長 柴山 美和

②静岡市 たんぽぽ保育園

園長 松川 由美

③浜松市 志都呂保育園

園長 竹中のり子

議長 浜松市 さざんか保育園

園長 安藤 香澄

助言者 常葉大学 准教授 山本 睦

記録 浜松市 さざんか保育園 主任 中西 浩実

発表(一) 保育者の資質向上を図る

「見守る保育」と「語り」等を

通して保育士の資質向上を図る

子ども自ら発達しようとする力を引き出す環境が大切と考え、中でも「人的な環境」である保育士の資質向上を目指し「見守る保育」と「語り」（人の声でおはなしを語る）ことで、心に働きかけ、豊かな感情をはぐくむの実践に取り組んでいる。また職員会議を保育士の資質向上の重要なファクターととらえ、園の理念や子どもの発達の状況を共有化するため、会議の種類と内容を検討し直した。今後、

職員同士の話し合いや振り返り、自己評価等を行いながら、研修体制をより充実させていきたい。

発表(二) 保育者の資質向上を図る

「場面記録を話し合う」

十年ほど前から、より子ども一人一人の育ちを細かくつかみ、子どもに寄り添った保育がしたいと考え、場面記録をとり、実践をまとめ、定期的に話し合いを行ってきた。場面記録をとることで、子どもを見る視点が定まり、また継続した視点で子どもの育ちを捉えられるようになった。記録を基に全職員で話し合うことで、自分の保育を振り返り、職員間でその後の手立て等を共有することができた。記録を書くという個人の作業と、話し合いという集団の作業を組み合わせることが、職員の成長と保育を深めることにつながっている。

発表(三) 保育者の資質向上を図る

「研修プログラムの充実による

職員の資質向上」

現在、職員の経験年数や研修に対する希望等を考慮の上、一人ひとりにあった研修計画を作成し、全職員がその研修に取り組みながら資質向上に努めている。今回の研究発表を良い機会と捉え、現在の研修プログラムについて職員にアンケートを実施した。その結果、職員の負担になっている部分があることや、

経験年数の少ない職員の研修に対するモチベーションが低いことなど、いくつかの課題が見えてきた。それを基に、研修内容や研修方法を再検討しながら、今後も職員が主体的に研修に取り組める環境を整えていきたい。

助言者より

新制度に移行し、これまで以上に保育の「見える化」をどう図っていくかが各園の課題となる。保育の営みの中で自分たちの実践を振り返り、分析し、意識化していくことが大切である。各園で行われている様々な研修は、保育者にとって自分の保育を振り返り、気づきを得て考察し、それを繰り返す中で、子どもにどのような育ってほしいのか、自分がどのような保育者でありたいのかを見つめ、深めていけるものであることが望ましい。その積み重ねが、職員集団の中での自分の役割を理解することにつながり、専門職の集団としての資質を向上させていく。



第四分科会

テーマ「地域の子育て家庭への

支援の充実にむけて」

― 保育所利用家庭、地域の子育て

家庭にむけて―

発表者 ①清水町立南保育所

保育士 高橋 陽子他

②静岡市立蒲原東部こども園

副園長 海野 則子他

③浜松市立引佐保育園

主任保育士 甲斐 恵他

議長 富士市 中里保育園

園長 青野 貴芳

助言者 静岡英和学院大学

准教授 永田恵美子

記録 富士市 中里保育園

保育士 青野 哲子

発表(一) 心を豊かに育む保育を目指して

～子ども育ちと共に～

子どものコミュニケーション能力を高めるために、絵本を題材とした実践をおこなった。実際の取り組みとして「絵本に親しむ機会を多く持つ」、「自分の想像を絵に表わし、表現する」「絵本の世界を保育の中で広げていく」「絵本についての園内研修を行う」などを行い、子どもの表現力、想像力を高めていくことができた。しかし、これらの取り組みを保護者

へどう伝え、親子で参加させるかという課題が残った。今後は保育所の活動を家庭に伝え、保護者とともに子どもの力を育てていきたい。

発表(二) 地域の子育て家庭への

支援の充実に向けて

～ 保育所利用家庭、地域の

子育て家庭に向けて～

有度ブロックでは、静岡市公立保育園全園で行われている「園庭開放」「おしゃべりサロン（地域未就園児対象の親子で遊べる場の提供）」を活用して、子育て支援を行っている。おしゃべりサロン実施に併せて、サロン会議の実施、関係機関との連携、サロン参加者の実態把握のためのアンケートなどを行った。それにより、子育てに不安を持つ親のニーズを知り、自園の活動に生かしたり、親との信頼関係を築くことができた。今後は、保育園の保育の専門性を生かした支援活動や、他職種との連携を強めて地域の子育て活動を応援していきたい。

発表(三) 地域の保護者支援の充実

～ 保育所利用家庭と地域の

子育て家庭に向けて～

浜松市の公立保育園では、地域の保護者支援の充実のための研究を行っている。五ヶ園の実践の内容と、アンケート調査、実践記録の見直しなどから、地域の特性を生かした「子育てサプリ」という、子育て不安



について解消する方法を導入した。またアンケート結果から、保護者が子どもの食事や、睡眠、痲癩などに悩んでいることを知り、「子育ての裏ワザ」を園便りなどに乗せることで対応している。これからも、それぞれの園が特徴ある保育実践を行い、さらに改善点を見つけ、保育実践の向上を目指していきたい。

助言者より

地域の特性により子育て支援の考え方は様々であり、それぞれの実情に合わせて特色ある実践が行われている。

これらの取組みを保護者へどう伝えるか、地域の保育園が働きかけて他職種との連携を厚くするなどの課題が残る。また、研究するにあたって、研究テーマを決め、目的、方法、結果、考察、討論の流れで記述を行うと、よりいっそう改善点が見つかり、次の保育実践に生かしていくことができる。

第五分科会

テーマ「家庭や地域との連携による

食育の推進」

―子どもの食事と栄養・食育を考える―

発表者 ①富士市富士保育園

主任保育士 青木万寿枝

栄養士 野澤 友里

②焼津市焼津南保育園

主任保育士 高橋 光栄

③浜松市たかつか光保育園

主任保育士 野末 真澄

栄養士 三ツ矢紗季

議長 掛川市千浜保育園

園長 藤田 紀子

助言者 日本大学短期大学部

非常勤講師 吉田 隆子

記録 掛川市千浜保育園

主任保育士 堀川 栄子



発表(一) 家庭や地域との連携による食育推進

～元気で「おいしいね」と言える

子供を目指して!!～

毎年食育活動の見直しをし、発信してきたが、子ども達も家庭でも反応が薄くなっている姿が見られる為、家庭や地域の方の力を借りて食に興味を持たせる工夫をしていく。食育シートの活用により、食材の持っている力に興味、関心を持つようになった。園での活動を通して子どもの喜びを家庭へ伝える事で、家庭からの共感も得た。アンケートの依頼、給食参観や行事での保護者の反応も良く、食への関心が深まってきた。今後も一人ひとりの子どもの食を営む力を高めると共に、基礎を培う事を目標とした食育の推進に努めていきたい。

発表(二) 地域や家庭との連携による食育

～食を営む力の基礎を培うための

保育園の役割～

乳幼児期は、生涯における食習慣の基礎となる時期であり、改めて子ども達の食に保育園は、どのような役割を果たしていけばよいか考え、研究に取り組んだ。共通の食育教材を取り入れ、食育のエピソード記述の話し合いを行ったことで、食への意欲を引き出すために、様々な関わりを大切にしながら周囲の人的環境に働きかけることが重要であると実感した。焼津市内の保育部員が深めた学びを自園の職員に伝え、さらに食育の意義について、園内で学習する機会を持たせた。

発表(三) 家庭や地域との連携による

食育の推進

～地産地消！五感で楽しむ食育～

食育にもっと力を入れようと、土地を借りて無農薬の野菜作りを始めた。家庭や地域の方の力を借りておいしく食べるには、五感を育てることも大切になることに目を向け食育活動を実践。畑作りを行い、収穫した物で郷土料理を作り食文化の継承。食に関するアンケート等を取り入れた。また、食育により人と人がつながっている事、それが笑顔につながることを感じた。今後も地域の良さを取り入れ、人と人とのつながりを大切にし、食育活動を行っていききたいと思う。

助言者より

楽しみながら研究をすすめていくのが良い。様々な職種の先生が、意見を言い合いお互い受け入れていく。栄養士は旬の情報を保育士へ伝え、保育士は子どもの情報を伝えていく。食指導は、親が行うべきものだが果たせないことが多い。子どもの様子を親へ返していく、口頭より視覚で訴えていく方が伝わりやすい。子どものそれぞれの時期にふさわしい経験をさせること、それを積み重ねていく事、毎年同じ事をやるのが大切。日本の食文化を伝えていく。職員が子どもを目で受けとめ安心感を与えることが大切。自分でやりたい気持ち自立へつながっていく。子どもがやれることを認めていってほしい。

第六分科会

テーマ「子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

―多様な機関との連携と協働―

発表者 ①長泉町このはな保育園

園長 伊藤 悟

②焼津市保育園協会障がい保育部会

運営委員長

保育士 田中 智美

③磐田市いずみ第一保育園

園長 佐々木宏子

議長 伊東市幼児教育課 さくら保育園

園長 高橋 安子

助言者 常葉大学／浜松大学

准教授 田中 浩之

記録者 伊東市立広野保育園

園長 稲本真由美



発表(一) 子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

多様な機関との連携と協働

人との関わりを大切にしたい・身近な人たちとの枠を超えていろいろな人たちとの関わりを広げていきたいという考えを基に、実践報告を行う。障害者通所施設など、施設の人たちとの野菜作りや行事への参加をはじめ、園の周りの豊富な自然の中で、地域の人たちとの交流の報告がされた。

子どもたちいろいろな経験をさせ、自分で考える力をつけ、自分の世界を広げていきたい。そして、地域の人たちとの関わりが、子どもからの発信となり、活動が継続され、地域の人たちと深くつながっていく機会を今後も与えていきたい。

発表(二) アセスメントシート・保育の個別計画書作成を通して保育の手立てを考

える

子どものより良い育ちに向けた

関係機関のネットワークの中で

公立十三カ園の部員が月に一度集まり障碍の知識を学び合うケーススタディーを行ったり、専門機関との連携をとる中で学び合う。その中で、アセスメントシートを作成する。

意見を出し合いながら自分たちが求める書式を作成し、それを作り上げていくことで、個別計画への意識が変化したことや、P D C Aサイクルの中での保育実践への意欲も生ま

れた。使用については各園での対応となる。

発表(三) 子どものより良い育ちに向けた

関係機関とのネットワーク

多様な機関との連携と協働

サッカーやラクビーなどのスポーツ体験や老人福祉施設との交流など地域の人たちと関わりを持ち、子どもたちは楽しくいろいろな経験をすることができている。障害のある子と医療機関・保護者・保育園の連携として、保護者を通して医療機関から資料を提供してもらい保育に役立てている。

保育園が近所の人たちが気軽に集まれる場所になって、楽しかった、やりがいがあった、という幸せな時間を共有し、子育てを楽しめていけたらと思う。

助言者より

連携とは両者の機能を総合的に問い直し高め合う関係を築くことであり、ネットワークをとるだけでは連携とはいえない。また協働とは何らかの目的を共有し共に力を合わせて活動することである。連携・協働というのは地域作りであり、共に育ちあう関係である。

保育所は地域住民の心のよりどころとなり「おらが町の保育所」「地域のシンボルとしての保育施設」となりたい。身近なところから始まって、外へと関わりを広げていくことで地域が協力してくようになる。

第七分科会

テーマ「保育の社会化に向けて」

―保育の営みを

いかに社会に発信するか―

発表者

①松崎町聖和保育園

園長 齋藤 光恵

②静岡市静岡市立川原こども園

園長 熊谷 朱美

③浜松市民間保育園園長会保育研究

委員会

ちゅうりつぱ保育園

園長 水島 一憲

議長

静岡市静岡市立八幡こども園

園長 鈴木三保子

助言者

常葉大学短期大学部

教授 鈴木久美子

記録者

静岡市静岡市立辻こども園

園長 石原 光恵



発表(一) 保育の社会化に向けて

～保育の営みをいかに社会に

発信するか～

松崎町で唯一の保育園であることから「子どもが見える」「子どもの声が聞こえる」保育を目指し地域との交流を積極的に行っている。年間通して中学生や高校生、ボランティアの受け入れ、地域の高齢者や障害者支援施設との交流をし、子どもが地域の方を知ったり、地域の方が声を掛けてくれたり関わりが広がっている。地元の保存会の方の指導で、棚田百選の棚田でお米を作り福島の保育園に送り交流も続けている。来年度、移転先でも地域のニーズに合わせた保育を展開したい。

発表(二) 保育の社会化に向けて

～保育の営みをいかに社会に

発信するか～

子どもと地域の人々との接点づくりや地域住民にこども園への理解を深めてもらう取り組みを積極的に進めている。地域の方の指導で、折戸特産の折戸なすの栽培やクッキングを行い、親子で感銘を受けたり、食育活動を鮮魚店や畑のおじさん、地域のスーパードと協力し、食への関心を高めている。子どもが散歩中、災害が起きたことを想定し、小学校や高校と避難合同訓練を行ったり、地域の方の協力を得て、お散歩避難マップを作った。今後も地域の中で子どもを育ていく環境をつくっていきたい。

発表(三) 乳幼児の眠りについて考える

～保育園児の実態調査～

社会の著しい変化により子ども達の生活に影響はないのか、浜松私立保育園六十一園で「子どもの眠り」のアンケート調査を行った。結果①「早寝、早起き」ができて②仕事の時間が子どもの生活リズムに与える影響が大きい③父親の就労時間が長く母親への育児の負担が多い、と分析された。乳幼児期に基本的な生活と健康な体を確立し思春期までの心の発達を考えた時に、保育園の社会的責務の重大さを感じ、保育園こそが子ども達の未来を輝かせる場所であると再認識すると共に、社会や企業に向けて発信していきたい。

助言者より

本大会の主題を最も具現化しているのが、本分科会のテーマであるとの認識のもと、優れた研究発表がなされた。発表(一)では、地域様々な資源を活用した試みが報告された。発表(二)は、地域と協働して営まれている、地域に根ざした活動の実践報告であった。発表(三)では、市内の園が連携して実施した調査結果をいかに社会に発信するかを会場全体で考えた。以上から、保育の専門機関として、地域のモノ、ヒトと繋がること。子育てに関する問題を自ら研究し、その成果を子育て家族のみならず、企業等も含めた地域全体に発信すること等、保育所の積極的な姿勢が地域の子育て力の底上げに不可欠であることが認識された。

第八分科会

テーマ「公立保育所の使命と

地域社会での役割」

—今後の公立保育所の

役割と実践を考える—

発表者 ①小山町すがめま保育園

園長 小野 美幸

②牧之原市勝間田保育園

園長 米山 晴美

③御前崎市白羽保育園

園長 服部 好子

議長 袋井市袋井南保育所

所長 本多 靖代

助言者 東海大学短期大学部

准教授 杉山 静子

記録 袋井市笠原保育所

所長 大石真朱実



発表(一) 公立保育所と地域社会での役割

～今後の公立保育所の

役割と実践を考える～

小山町においても少子化対策の重要性が増している。アンケート調査により、子育て家庭に対する支援のニーズを探った。子育ての楽しさを発信し、子育て家庭で地域に溶け込めない保護者や子育てに関心がもてない保護者に対してのアプローチをこれからの役割と捉え、安心して子育てができる環境の一つとして保育園の役割を果たしていきたい。幼稚園・こども園・保育園が連携していくことで、質の高い教育・保育を目指しながら身近な存在となり子ども達の成長を見守りたい。

発表(二) 公立保育所と地域社会での役割

～地域の中で育つ

心豊かな子どもたち～

核家族化・少子化の問題や子育てが孤立し育児に不安を抱える親が増加している。市の施策である『宝子ども育成プロジェクト』で保育園でも協力できる部分としての取り組み①気になる子への支援教育体制や子育て支援連携システム「子育てネット」の導入など行政・関係機関との連携。②地域の方々との触れ合いや体験を通して地域で過ごす楽しさや心地良さを味わい、地域への愛着を深める。③公立保育園としての役割を意識し専門職としての資質の向上に努める。

発表(三) 公立保育所と地域社会での役割

～保幼小中の連携を

確かなものにして

地域の子どもを育てる～

平成二十六年より「とぎれない教育」の実現のため保幼小中を「一つの学校」と捉え「スクラム・スクール・プラン(SSP)」を立ち上げた。公開保育・授業への保幼小中の職員参加や合同研究会などを実施した。中学校参加後の話し合いや三十代の職員の話し合いの機会など現場の職員同士の話し合いが有意義であった。来年度はスクラム研修会の参加だけでなく、学区の小学校との話し合いや保育を見てもらい小学校との連携を深めたい。

助言者より

公立の保育園には新制度の事を、より充実して市民に理解が得られるようにしていく役割がある。人づくりの基本である乳幼児教育は絶対に質を落とすとはいけない。質を高める取組みは「なぜ」と問いつけること・記録していくこと。自ら学び進歩していくこと。またデータをもつて理論的に客観的に、相手の心に響くように伝えていく技術を磨いてほしい。「地域全体の奉仕」の観点から地域全体の子どもたちの育ちを保障して、保育の底上げをしていくためにネットワークを活用していく仕組みを公立の機関が先導していかねばならないと思う。

県保育研究大会に参加して

第一分科会

今回研修に参加し、西部・中部・東部の三つの発表を聞いた。発表を聞きながら、「自分はこの時どうするのだろう」「子どもに最善を尽くすことができるのか」など考えた。どの園も日々の反省を元に話し合いやロールプレイを行ったり、子どもの良い所を見つけたりしていた。私は、日々の保育を反省し、悩んだことは先輩に聞くようにしている。しかし、それだけで満足していた部分もあった。今後は、様々な視点で子どもの良い所を探し、関わり方を見直していきたいと思った。他の園について知る機会があまりなかったのを知ることができて良かった。この研修で感じたことを活かしていきたい。

なごみこども園 高橋あゆみ

第二分科会

気になる子への支援や援助方法については悩んだり不安で先が見えなかったのですが、各園の発表を聞き、支援にはもつと様々な方法や形があるという事を知ることができました。子どもに合わせた配慮では「支援ツール

の評価表の作成、気になる所の分析や保育者間での共通理解、専門機関との連携」が大切であり、また保護者支援では「日々の対話と伝え方、気持ちの理解と寄り添いが信頼・理解へと繋がりが深まる」という事を改めて学ぶとともに、新たな発見となりました。

各園や助言者の先生方のお言葉・やり方を基に、出来る事から取り組み「丁寧な眼差し」で保育をしていきたいです。

御殿場市すみれ保育園 田代梨紗

第三分科会

保育の質の向上や職員のスキルUP・共通理解をベースとした資質の高い保育を得るための研修や会議の持ち方等、三園様々な特色の有る実践発表がありました。自園に具体的にどの様に活用できるか他園の先生と情報交換し、有意義な研修となりました。『子どもの最善の利益』を保証する為、どの方法が自園の保育に取り入れられるか、またそれをきっかけに資質向上を図れるかを、発表を参考に考慮していきたいと思います。また、山本先生による「シティズンシップ教育」より、園独自のスキル教育をベースに保育して

いく中で、社会性の発達や公共性等について丁寧に取り上げ、共通認識として議論しながら日々保育に取り組んでいきたいと思いましたが。

片浜保育園 小野由美

第四分科会

本年度四月から、認定こども園に移行となった静岡市公立保育園・幼稚園にとり、「地域の子育て家庭への支援の充実」が、一層求められているところです。

実践報告から、絵本を軸とした保育の内容を家庭に伝える・園が地域の子育てを応援する場となり機関と連携する・子育ての悩みに細やかな、工夫を凝らした方法で答える等、各園が、専門性を充分に活かした取り組みをし、親と子、子と子、親と親、家庭と関係機関をつなぐ役割を果たしていることがよくわかりました。

今後は、保育教諭一人ひとりが「つながり」ということを意識し、園が一体となって、これまでの取り組みを根気よく継続していくことで、地域みんなで支え合う子育ての構図ができ、子どもの健全な育ちが保障されていくのだと思いました。

静岡市立有度西こども園 海野紀美子

第五分科会

今回、研究大会に参加させていただき、改めて食育の大切さを実感しました。

たくましく生きていくために子どもにとっても食べることはとても大切なことです。子どもが楽しく食について学び、食べることの喜びが味わえるよう園や保育士が環境の工夫をしていくことで、子どもの食に関する意識が高まり、強くたくましい体と心を育てることができるとは思いません。園や保育士だけではなく、家庭とも連携を取っていき、同じ方向性を持って、食に対する意識を高めていきたいと思いました。

函南町立西部保育園 西澤 愛

第六分科会

研究報告を聞くことで自園の取り組みを振り返る機会をもち、日常の保育の一つひとつが、地域とつながっている事を改めて感じた。外部との連携については、計画を立てて進めていく実践の中で行事的な捉えになりがちであるが、子どものより良い育ちにむけた「身近で継続的な、地域との相互のかかわり」を目指すために、子ども、保護者、地域の実態を的確に捉え、意図をもって関係機関との連携を図っていくことが大切であることを再認

識できた。積極的に地域のことを見て感じ取り、地域からどのような役割を期待されているかということも考えたうえで今後の取り組み方法を見出ししていきたい。

静岡市立高松こども園 寺田誠子

第七分科会

子どもを取り巻く社会が変化する中、大会の主題に直結している分科会でした。その中で二つの視点を教えていただきました。一つは保育園にとって一番身近な社会である地域に積極的に関わろうとする思いがつながりを広めていることです。それには地域との交流が子ども達にとっても社会を知る大切な機会であると職員が共有し、活動を進めることが重要です。もう一つは、子ども達をめぐる生活や家庭の実態から社会に関わる問題を発信する事。西部の発表で地域の企業に発信するという視点は新鮮でした。子どもをめぐるとして保育園は社会に問いかける役割があると思います。各園で実践を積み重ねることが社会を変えていく大きな力になると感じました。

清水こども園 長澤喜久江

第八分科会

今回改めて「公立保育園の使命と地域社会での役割」を考える機会をいただきました。

三園の発表を聞き、地域の子ども達を地域で育てていくこと、大きな視野を持って成長を見守っていくこと、そして公立だからその行政との連携や情報の共有の大切さを感じました。

助言者の杉山先生の子育ての根っこは子どもが成長しても同じところにあるということ、私たち大人が子ども感を共有し、それを積み上げていくことで子どもは成長していくというお話は大変勉強になりました。

第八分科会に参加させていただいたことで、さらに、子どもたちが心豊かに育っている地域づくり、園づくりを考えていきたいと思いを新たにしました。

吉田町立すみれ保育園 鈴木香



新規採用予定職員研修会

東部支部

月日 平成二十七年二月二十四日～二十五日
会場 箱根の里 少年自然の家
参加者 六五名

四月の温かさを思わせる日差しの中、三島市箱根の里少年自然の家に六十五名の研修生が集まりました。開会式終了後すぐに野外活動のポイントラリーを行い、昼食は飯盒炊飯でカレーを作る中で、班の仲間とのコミュニケーションも深まり、活動にまとまりが出てきました。

一日目の講義は「社会人として一番大切なこと」と題してアップハート代表勝又ひで子先生より接遇とマナーの基本を学びました。交流会の室内オリンピックでは班がまとまり一丸となって楽しむ姿が見られました。二日目の講義は保育所連合会副会長の内藤栄一先生より「保育園にとって一番大切なこと」（保育所の使命と役割）、保育士会副会長の名倉喜美江先生より「あなたにとって一番大切なこと」（保育者の使命と役割）と題し、保育所職員としての基礎知識を学びました。和服姿で登場した名倉先生を前に、研修生の背筋もピンと伸びていました。

その後、元伊豆市修善寺保育園長の原用呼

先生に「絵本の魅力」（読み聞かせの方法）として、たくさんさんの絵本を持参して頂き、そ

れぞれの特徴や選び方のコツ、読み聞かせをする時に心がけている点などを実際に読み聞かせを織り交ぜながら紹介して頂きました。また、裾野市富岳南保育園の看護師、植松千草先生による「保育園における感染予防策として、手洗いや嘔吐物の処理の実技講習など、保育現場ですぐに実践してほしい講義が続きました。最



中部支部

月日 平成二十七年二月十八日～十九日
会場 焼津青少年の家
参加者 八八名

後の講義は「現場からのアドバイス」（保育の楽しさを知ろう）と題して、ワークショップを行いました。グループでの活発な討議や、実行委員の先生方のアドバイスを聞く真剣な顔には、保育所職員としての自覚が感じられ、頼もしく思いました。

この研修を通して学んだことを活かして、社会人として、保育所職員として大きく成長してほしいと願っております。

実行委員長 双葉保育園 勝又秀文

期待？不安？を胸に今年も、新規採用予定者研修会に参加するため、焼津駅に次々とリクルートスーツ姿の参加者が集まって来ました。ここから、研修がスタートです。開講式では、焼津駅に一番乗りだった参加者が、初心表明します。研修内容は、「保育所の使命と役割」を、中部支部長の神野先生より、「社会人としての人間関係と服務接遇」について、勝又先生に、「保育者としての役割、服務、危機管理」について県保育士会会長下原先生よりお話ししていただきました。「手遊び歌遊び」を櫻井先生に、「こどもと絵本」を小泉先生にご指導頂きました。全体交流会では、

小林先生ご指導、リードの元、グループごと
の発表や、ゲームを競い合って楽しいひと時を過ごしました。参加者は、「研修が終わってからの自分の目標や学ぶべきところが具体的になった。」
「社会人としてのマナーや責任感を持つことの大切さを確認し、これからの、



研修委員長 海野美代子

自分の目標や学ぶべきことが、明確になった」とアンケートに答えています。ご協力いただいた先生方に感謝いたしますとともに、この二日間に確信した初心を忘れずそれぞれの場所、笑顔で毎日子どもたちと過ごし活躍されていることを願って報告いたします。

西部支部

月日 平成二十七年二月十八日～二十日
会場 静岡県立三ヶ日青年の家
参加者 一一三名

西部支部では今年度も二泊三日のスケジュールで研修をおこない、百十名を超える研修生が参加しました。

一日目。県保育所連合会岡田副会長、県保育士会下原会長の講義からスタート。保育所として使命、保育士としての自覚を学びました。午後は二時間以上をかけてオリエンテーリング。班内での親睦、結束力を高め、班としてのまとまりができました。今年には道に迷った班もあり、初日でかなり深い絆ができたようです。そして夜は「絵本で子どもの心と手をつなごう」絵本のおもしろさが改めて伝わりました。

二日目。例年と同じ構成の研修の中で、今年には、「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」という講義を入れました。近年、ふざけて載せた写真やつぶやきが社会問題になっていきます。守秘義務があるこの仕事は倫理観が必要です。学生のままの感覚でネットを使用する危険性を伝えました。そして夜は「現場からのアドバイス」二日間で深まった絆は、率直な意見・疑問など言いやすい環境を作り、時間いっぱいまで先輩方からたくさんのお話を聞きました。

三日目。

「社会人として一番大切なこと」人間関係とサービス接遇
「二日間の講義を受けたうえで、これから保育士・保育教諭になるという自覚が芽生えてからの講義に、研修生の意識も違ったのではないだろうか。
社会人として、保育所・こども園の職員としての今後の活躍に期待したいと思います。

実行委員長 掛川こども園 野中徹



各研修報告

施設長研修会

期日 平成二十七年一月二十二日(木)
会場 清水テルサ

昨年に引き続き、清水テルサにて三〇九名が参加して施設長研修会が開催されました。

講義①は、静岡英和学院大学非常勤講師佐々木光郎先生をお招きして、「気になる子ども・保護者への支援」と題してご講演いただきました。難しいテーマでしたが、独特な語り口調で、具体的な支援の方法を楽しく学ぶことができ、新制度施行を間近に控え、先行き不透明で不安を感じていることもありましたが、一番重要なのは毎日関わる子どもと保護者のことであると、再認識できました。

講義②は、保育所連合会の後藤弘明会長による「保育情勢動向」でした。新制度施行にあたり、財源の面で未だに疑問があること、上部三団体の情勢、また社会福祉法人改革などについて説明をいただきました。

講義③は、静岡文化芸術大学名誉教授宮内博実先生による「色彩を知って、保育環境の向上を図るために」でした。子どもたちの感性が豊かに育つために、環境の中に色の数、特にきれいな色の数を増やし、環境を良くしていくことが重要であることを自身の体験を踏まえてお話しいただきました。保育士の感性を豊かにし、子どもたちが何かに感動して、表現したいという気持ちを引き出すことの大切さを学びました。

新規採用職員研修会

期日 平成二十七年六月二日(火)
会場 静岡県総合社会福祉会館

今年度の新規採用職員研修会は、一三四名の参加がありました。

最初の講義は、静岡県保育所連合会会長の後藤弘明会長による「保育所等の使命と役割」でした。新制度が生まれた背景や内容、保育園という組織が職員に求めるものについてお話しをいただきました。

次の講義は静岡県保育士会の下原直美会長による「保育者の使命と役割」でした。「保育のしおり」に沿って専門職としての指標についてお話しをいただきました。保育という仕事は人のために尽くすやりがいのある仕事であり、保育を通して自分を磨き「生きがい」になることもお話しをいただきました。

午後の講義では、小田原短期大学学長の小沼肇先生より「新人保育者の責任とプライド」責任重大！かわいい子どもたちの人生が「責任」をテーマに講演していただきました。子どもたちを育てるためには共感することが大切であることを学びました。保育者に求められるものは、「確かな技術・暖かな心・冷静な頭」であり「教える人」ではなく「育てる人」と意識することが重要であると教えていただきました。グループ討議では、職種や年齢層に応じてグループを形成し、活発な意見の交換の場となり、悩みの解決や次の日からの保育活力となりました。

青年部会研修会

期日 平成二十七年六月十二日(金)
会場 静岡音楽堂A〇〇講堂

今回の研修会は「子ども・子育て支援新制度の本格実施に伴う取組と課題について」をテーマにシンポジウム形式で開催されました。初めに県保育所連合会の後藤会長が「これからは組織の新陳代謝が必要。今日参加している若い皆さんがこれからの県保連の中核・上層部を形成して欲しい。」と話され、続いて青年部の志賀口部会長が「保育制度改革の次は社会福祉法人改革となる。今後、個人の意見だけでなく県保連としてどう考えていくかが大事。」と語られました。

シンポジウムではコーディネーターに富士宮市野中保育園中村先生を迎え、パネリストである富士市中里保育園青野先生による「お寺という基盤」、焼津市なかよし保育園北山先生による「保護者との協働」、浜松市なごみこども園志賀口先生による「カフェを新設してのコミュニティ作り」について、それぞれの取り組みの発表がありました。三つの施設が独自の特色を生かした運営をされていることから、制度・情勢の変化に翻弄されないしつかりとした施設運営の基盤作り（特色作り・ブレない軸作り）の確立こそが、今後「選ばれた園」に繋がることを再認識させられました。

研修委員会

委員長 掛川こども園 野中 徹

本年度上期に開催した所長研修会及び新規採用職員研修会も盛会のうちに終了致しました。皆様のご協力に感謝いたします。また、ほいく静岡の各研修報告のページをご覧ください。

当委員会では、いよいよスタートした新制度を様々な角度より見つめられるよう、幅広い分野から講師を招聘し、充実した研修会の企画・運営に努めます。下期の研修会は次の通りです。

○民間園長研修会

平成二十七年十月二十九日～三十日

熱海温泉 ホテルニューアカオ

○育児相談研修会

①西部地区

平成二十七年十一月五日(木)

アクトシティ浜松研修交流センター

②中部地区

平成二十七年十一月十九日(木)

静岡音楽館A O I 講堂

③東部地区

平成二十七年十一月二十七日(金)

沼津市民文化センター

○施設長研修会

平成二十八年一月二十七日(水)

清水テルサ

○新規採用予定職員研修会

平成二十八年二月中旬から下旬

予算対策委員会

委員長 緑ヶ丘保育園 内藤栄一

本年四月、子ども・子育て支援新制度が施行され、「量的拡充」及び「質の改善」が図られたところではありますが、子ども達の安全と健やかな成長を保障し、心豊かな次世代を育成していくという使命達成のため、保育所等がより一層充実した保育・教育を展開できるよう、次の六項目を県に要望していきます。

①食育の充実と推進について

②民間社会福祉活動団体運営費助成の増額について

③産休等代替職員雇上事業の充実について

④東海地震等大災害に対する安心・安全な施設の充実について

⑤乳幼児保育事業の充実について

⑥3歳未満児入所サポート事業の継続について

加えて、保育三団体の予算対策活動に参画し、国に対し次の三項目を要望していきます。

①子ども・子育て支援新制度を推進していくための恒久的な財源の確保について

②保育の質を高めるため、抜本的な処遇改善を実現する給付について

③保育所等整備交付金・保育対策総合支援事業費補助金の維持・拡充について

海外交流委員会・少子化等問題検討委員会

委員長 緑ヶ丘保育園 内藤栄一

(海外交流委員会)

本年度は第二十回の記念事業として、十一月二十二日(日)～二十八日(土)の五泊七日でイタリアを計画しております。

「モンテッソーリ」「レッジョ・エミリア」等の幼児教育に触れ、数々の世界遺産を訪ね、見聞を広めると共に、仲間との親睦を深める研修内容と致します。

八月初旬に募集要項を委託旅行業者から発送しますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。

(少子化等問題検討委員会)

保育所等利用者以外に、子育て支援への関心と理解を求める啓発活動を行った場合の経費を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。この助成金を活用した地域子育て活動の展開を更に推進するとともに、財源となります協力金へのご支援をお願い致します。本年度の啓発品としては「カラーメモ」を作成する予定です。

また、『ふじさんっこ応援フェスタ』が九月四日(金)アクトシティ浜松(浜松市)で開催されます。保育所連合会では「ふじさんっこ応援隊」の一員として参加を致しますので、皆様のご支援をお願い致します。

平成二七年度 第五六回
関東ブロック保育研究大会

平成二十七年七月二日(木)～七月三日(金)
 グランシップ



七月の二日、三日において静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）を会場に開催されました、第五十六回関東ブロック保育研究大会が盛会裏に無事に終えることができました。

今は、私自身、それまでの日常に戻りつつありますが、十五年に一度の関東ブロック保育研究大会の開催県としての役目を果たし終えたことで、ある程度の達成感と祭りの後の寂寞感に包まれながら日々を過ごしているような気がします。

もともと私自身は大した仕事もせずになだおろおろしていたに過ぎません。昔から「駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人」という言葉がありますが、さらには道を作る人も必要だと思えます。さしずめ事務局や運営委員会は大会の道筋を作ってくれる役割を、草鞋は、実行委員会の皆さんが大会を動かす下準備を、そして実行委員や応援して頂いた先生方は、担ぎ手として二日間にわたる大会を支えて頂いたということになります。



振り返りますと、二十五年八月より、事務局を中心に、大会の組織作りや大会までのロードマップを策定していただき、県や県社協を交えた運営委員会が立ち上げられ、大会の基本フレームを作っていました。また、神野実行委員長を中心に、総務部、大会運営部、分科会運営部、宿泊・観光部、広報・資料作成部の各部長と委員の皆さんに、それぞれの具体的役割や仕事内容を検討していただき、他県より少ないスタッフ人員で大会に臨むことができました。

このように受け入れ態勢は順調に推移いた



しましたが、当初の参加予定人員の千二百名にはなかなか到達できず、五月十五日が締め切りでしたが、十三日での状況は五百四十七名の参加申し込みしかなかった、急遽、参加募集を延長いたしました。五月末時点で九百四十名と伸び悩んでいました。六月三日の関東ブロック会長会において、再度動員要請を行うとともに県内の会員に対しても参加募集の再々延長を行うなど参加者確保に苦慮いたしました。最終的には大会参加者は一〇六一名、分科会参加者一〇二六名、大会関係者は延べ二五八名と、その他関係者七〇名を加え、大会総数は二四一五名となり、なんとか目標に近づけることができました。大会参加にご協力をいただきました、県内の各園の皆様、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、大会ですが、残念ながら好天とはならず、あいにくの雨模様となりましたが、会場の大ホール「海」は参加者の熱気にあふれ、開会式後の、行政説明では厚生労働省の馬場保育指導専門官による新制度における状況と課題について、時機を得た分かり易い説明を受け、その後の記念講演では三島市在住の絵本作家である宮西達也氏による「絵本と子育て」という演題で、自身の子育て経験も踏まえてお話をいただきました。また、絵本の読み聞かせでは、会場からも読み手を登壇させ、それぞれの感じ方は皆違ってよいことや、子ど



もに対しては、否定的な言葉は控え、肯定的な言葉がけをしてやることの大切さを伝えていただきました。会場の参加者も自然と優しい空気に包まれていたように感じました。二日目の分科会は、同一会場ということで、参加者からも好評のようでしたし、また、それぞれの分科会の内容も、他県の会長から、大変中身の濃い充実した内容であったとの感想もいただきました。思い出すままに書き綴ってきましたが、この大会運営を通して何より強く感じたのは、県保育所連合会の組織力のすごさや、裏方として参加協力をいただいた全ての保育関係者が主体的に仕事に取り組み、質の高いおもてなしをしていただいたことです。改めて、深く敬意と感謝を申し上げます。

各支部だより

東部支部

支部長 緑ヶ丘保育園 内藤栄一

一、総会及び施設長研修会

期日 平成二十七年五月二十六日(火)
会場 沼津市民文化センター 大会議室
講師 伊豆の国市 慈恩保育園 副園長 土山龍之氏
内容 「ミッシンッピ川
カヌーで三〇〇〇キロの大冒険」

二、中堅保育者研修会

期日 平成二十七年八月二十七日(木)
二十八日(金)
会場 三島市箱根の里少年自然の家

三、保育の日研修会

期日 平成二十七年十月二十四日(土)
会場 三島市民文化会館

四、民間部会県外施設視察研修

期日 平成二十八年一月中旬
視察先 未定

五、行政部会研修

担当 伊豆の国市

六、青年部会研修

期日 未定
会場 未定

七、新規採用予定職員研修会

期日 平成二八年二月下旬
会場 三島市箱根の里少年自然の家
八、家庭における読み聞かせ活動の普及

中部支部

支部長 ゆりかご保育園 神野博行

一、総会及び施設長研修会

期日 平成二十七年五月十八日(月)
場所 静岡県総合社会福祉会館
講師 中京大学客員教授 鯨岡 峻氏
演題 「幼保連携型認定こども園
教育・保育要領を読む」

二、保育所職員研修会

期日 平成二十七年十月二十日(火)
場所 静岡科学館 る・く・る
講師 静岡科学館館長及びエデュケータ
常葉大学教授 山田辰美氏
演題 「五感を磨き、高い感性の保育士
を目指して」

三、中堅保育士研修会

期日 平成二十八年一月二十一日(木)
場所 静岡県総合社会福祉会館
講師 玉川大学教授 大豆生田啓友氏
演題 「園の保育の質を高める中堅保育士
の役割」

四、新規採用予定職員研修会

期日 平成二十八年二月十六日(土)
十七日(予定)
場所 静岡県立焼津青少年の家

五、各地区事業

各地区ごとの事業計画に基づいて実施

西部支部

支部長 ルンビニ保育園 岡田泰稔

一、総会及び施設長研修会

期日 平成二十七年五月十九日(火)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 同志社大学赤ちゃん学研究センター
教授 小西行郎氏
演題 「赤ちゃんに学ぶ、育つチカラ！」

二、男性職員交流研修会

期日 平成二十七年七月三十一日(金)
場所 アクト研修交流センター四〇一
講師 百町森相沢康夫氏
演題 「乳幼児の遊び」

三、初任職員研修会

期日 平成二十七年九月十五日(火)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 (株)スマイルカンパニー 村松崇継氏
演題 「未定」

四、小児医療研修会

期日 平成二十七年十月八日(木)
場所 アクト音楽工房ホール
講師 磐田市立総合病院小児科部長
白井眞美氏
演題 「未定」

五、新規採用予定職員研修会

期日 平成二十八年二月十七日(土)十九日
場所 静岡県立三ヶ日青年の家

保育の現場における **2016年1月29日(金)**

気になる子どものケア実践報告会

～園児総合支援システム(HOP)が現場の保育を変える～

会場 筑波大学東京キャンパス文京校舎にて

講師

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授 安梅勅江氏
日本保健医療大学 保健医療学部 准教授 渡辺多恵子氏
小倉北ふれあい保育所 酒井初恵氏

日時

2016年1月29日(金)
13:00～16:30

参加費

5,000円(税別)

内容は変更になる可能性があります。詳細については、お申し込みいただいた方にご連絡いたします。

筑波大学とパステルIT新聞の共同開発 園児発達支援システム



16年間、36,000名パネルコホート研究による科学的根拠に基づき開発した総合的な子育て・子育て支援システム。子どもや保護者が抱えている問題・課題を整理し、的確な支援ができます。

問合せ ☎054-626-8888 パステルIT新聞事務局 <http://itnews.passtell.jp/>

さまざまな危険からお子さまをお守りする

『園児総合保障共済制度』



キッズカード (こども総合保険)

AIU損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には予測できないことも多く、何かとお心づかいのことと存じます。いつ、どこで何が起こるのか予想もつかない事故の、確かな“まもり”として本制度をお届けいたしております。

静岡支店 〒422-8067 静岡市駿河区南町14-1
水の森ビル5階
☎: 054-284-2781
浜松支店 〒430-0935 浜松市中区伝馬町312-32
浜松シティビル5階
☎: 053-454-0321
沼津支店 〒410-0801 沼津市大手町3-8-25 7階
☎: 055-963-8081



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社 **シャクエツ**



保育士
登録数 **20,000名**

アスカグループは保育士さんの人材紹介・派遣会社です

保育士求人ポータルサイト
保育情報どっどこむ

くわしくはwebで [保育情報どっどこむ](#) ウェブ検索

保育士の人材紹介・派遣
asuka アスカグループ
0120-777-277

誕生!!



東武トップツアーズ

2015年4月1日

トップツアー株式会社は東武トラベル株式会社と合併し

「東武トップツアーズ株式会社」として生まれ変わりました

東武トップツアーズ株式会社静岡支店
〒420-0859 静岡市葵区栄町3-1
あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10階
TEL:054-255-1919 / FAX:054-252-9509

こどもの笑顔がみたいから

安心・安全な
保育園用おやつ



全国の保育園から
お使い頂いています

 **株式会社サンワールド**

<静岡支店> 〒421-0121 静岡市駿河区広野2-10-17
TEL054-256-6332 <http://www.sunworld-honsha.co.jp>

保育所事務処理の“作業効率化・正確化”を応援します！

社会福祉法人支援システム「創・ゆとり」シリーズ

操作はとっても簡単！

財務会計2015

「新会計基準」へまだ移行されていないお客様は、弊社まで是非お問合せ下さい。

給与計算2015

「給与実務カレンダー」「職員一覧入力画面」等、便利な機能を追加して生まれ変わった給与システムです！

給食管理システム

基本的な食品成分表はセット済み。栄養目標値に対する達成率や発注・仕入処理も可能なシステムです！



ISO9001・ISO27001認証 ITインテグレーター
株式会社 ユニテック

〒420-0911 静岡県葵区瀬名1丁目18-33 ユニテックビル
TEL:054-264-1111 FAX:054-264-7771

ホームページ www.unitec.jp メールアドレス eigyo@unitec.jp

緊急連絡網の準備はできていますか？携帯電話・パソコンへ斉メール配信「携帯電話チェックインシステム」

緊急時、行事開催、一般連絡等の情報伝達が飛躍的に改善されます！
受信者のメール確認状況も把握できます！

園の紹介、情報開示は簡単便利なホームページで！「らくらく更新web」

苦情解決、事業報告、行事予定、写真(アルバム)等の
情報公開、情報更新が園のパソコンで簡単にできます！



株式会社 データサービスセンター

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2(沼津卸商社センター内)

Tel:055-972-7717 <http://www.dataeast.co.jp>

Fax:055-972-0969 E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp



御殿場市 双葉保育園 勝又秀文
初めて広報委員会に参加させていただきます。よろしくお願ひします。
沼津市 原町保育園 鶴谷由美子
広報委員二期目に入りました。みなさんに助けていただきながら何とかやっています。

静岡市 月影保育園 浅井哲朗
また広報になりました。できるだけサボらないようがんばります。

静岡市 相生保育園 吉野恵人
関プロも無事に終り、ほいく静岡も完成し後は、関プロの報告作り、長い年です。

静岡市 麻機保育園 鈴木克明
関プロ、そしてほいく静岡編集と次から次へと仕事が増えてきます……

静岡市 ゆりかご保育園 神野博行
関プロが終わってほっとしています。
次回の冬号も楽しみにして下さい。

静岡市 あいわ保育園 増田俊一
広報の仕事はこれで 三回目

浜松市 入野こども園 中村勝彦
関プロも無事に終わりましたが、これから報告書の作成があると思うと……

袋井市 袋井ハロー保育園 鈴木康
初めての広報委員で不安もありますが、心をこめて編集していきたいです。

湖西市 真愛保育園 松浦弘太郎
今年から広報委員になりました。精一杯頑張りたいと思います。

わんぱくひろば



「ほいく静岡」原稿写真募集中

保育実践・研究の紹介や育児相談・講座の紹介など奮ってご寄稿下さい。
ホームページ : www.hoiku-shizuoka.org

✉ 投稿先 静岡県保育所連合会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番70号
TEL / FAX : 054-251-8873